

第 3 6 回水の週間実施報告書



平成 2 4 年 1 0 月
水の週間実行委員会

第36回水の週間中央行事は、後援機関、協力団体

及び協賛団体の皆様のご支援・ご協力により開催されました。

主催機関

国土交通省

東京都

水の週間実行委員会

後援機関

文部科学省

厚生労働省

農林水産省

経済産業省

環境省

(独) 水資源機構

公益財団法人 日本科学技術振興財団

日本放送協会

一般社団法人 日本新聞協会

協力団体

電源開発(株)

協賛団体(五十音順)

(財) 河川環境管理財団

(財) 河川情報センター

(社) 建設広報協議会

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会

(財) 国土技術研究センター

一般財団法人 砂防・地すべり技術センター

一般社団法人 砂防フロンティア整備推進機構

石油連盟

(社) セメント協会

一般社団法人 全国建設業協会

(社) 全国建築物飲料水管理協会

巧水スタイル推進チーム

(財) ダム技術センター

(財) ダム水源地環境整備センター

一般社団法人 ダム・堰施設技術協会

電気事業連合会

(社) 日本埋立浚渫協会

一般社団法人 日本衛生設備機器工業会

一般社団法人 日本ガス協会

一般社団法人 日本橋梁建設協会

一般社団法人 日本経済団体連合会

一般社団法人 日本建設機械施工協会

(社) 日本建設業連合会

一般財団法人 日本建設情報総合センター

一般社団法人 日本水道工業団体連合会

日本製紙連合会

一般社団法人 日本鉄鋼連盟

一般社団法人 日本電機工業会

(社) 日本パルプ工業会

(社) 日本ホテル協会

(社) 日本林業土木連合協会

ビール酒造組合

公益財団法人 リバーフロント研究所

水の週間実行委員会委員団体

全国水土里ネット

(社) 日本水道協会

公益財団法人 利根川・荒川水源地域対策基金

一般財団法人 造水促進センター

全国簡易水道協議会

(社) 日本治山治水協会

公益社団法人 日本下水道協会

公益社団法人 土木学会

公益社団法人 日本河川協会

(財) 日本ダム協会

公益社団法人 農業農村工学会

(社) 日本工業用水協会

(独) 水資源機構

NPO法人 日本水フォーラム

(目 次)

第36回「水の週間」の開催にあたり	2
第36回「水の週間」行事の概要	3
水の週間中央行事「水を考えるつどい」	4
水の週間中央行事「水の展示会」	7
平成24年度水資源功績者表彰	13
第34回全日本中学生水の作文コンクール	15
第27回水とのふれあいフォトコンテスト	18
水の週間記念 第32回隅田川レガッタ	21
利根川水系における上下流交流	23
水の週間一斉打ち水大作戦	24
国や地方公共団体等での実施状況	25
第36回水の週間新聞等報道状況	28
「水の週間」実施経過	30
水の週間実行委員会について	32

※表紙の写真は、第27回水とのふれあいフォトコンテストグランプリ「一斉放水」：石塚賢宏氏

「水の日」及び「水の週間」について

昭和52年5月31日

閣 議 了 解

水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性について国民の関心を高め、理解を深めるため、「水の日」を設ける。

「水の日」は毎年8月1日とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、ポスターの掲示、講演会の開催等の行事を全国的に実施するものとする。

上記の行事は、地方公共団体その他関係団体の緊密な協力を得て行うものとする。

「水の日」及び「水の週間」制定の理由

わが国の水需要は、生活水準の向上、経済の進展等に伴って近年著しく増大してきたが、一方水資源の開発は次第に困難になっており、渇水時には水不足が生ずることが予想される状況となっている。

このような状況にかんがみ、毎年8月1日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性に対する関心を高め、理解を深めるための諸行事を行うことによってわが国の水問題の解決を図り、もって国民経済の成長と国民生活の向上に寄与することとしたい。

なお、諸行事を行うためには、年間を通じて水の使用量が多く、水について関心が高まっている8月上旬が適当であるので、その初日である8月1日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」とするものである。

第36回「水の週間」の開催にあたり



水の週間実行委員会会長 虫明 功臣

今年で第36回目の「水の日」及び「水の週間」を迎えるに先立ち、本日ここに、水を考えるつどいを開催するにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

まず初めに、水の週間中央行事の開催にあたりましては、ご列席の皆様の格別のご理解とご協力を賜りましたことをこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、昨今の異常な気象状況については、皆さんもお気づきのことと思いますが、昨年7月には新潟・福島豪雨、そして9月には台風12号と15号による記録的な大雨に見舞われました。

また、今年も6月の台風4号に続き、活発な梅雨前線の活動により、特に7月中旬には九州北部を中心とした地域が記録破りの猛烈な大雨に見舞われたことは記憶に新しいところです。こうした大雨は、土砂災害や浸水被害、河川の氾濫などを引き起こし、多数の死傷者を出すとともに甚大な被害をもたらしました。被害を受けた方々には、心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

他方で、とりわけ東日本大震災以降、水、とくに我々が普段口にしたり生活に利用したりする水が、どれだけ私たちの暮らしの中に欠かすことのできない資源であるかということが、これまで以上に強く認識されるようになっていきます。

こうした水を取りまく近年の状況を踏まえ、水について改めて考えてみますと、水は、ときとして私たちの生活を脅かす脅威である一方で、それでもやはり、私たちが生活する上では欠かすことのできない恵みであることに気づかされます。

また、私たちは、このような両側面の性質を持つ「水」という資源について、より上手に管理・活用していくにはどうしたらよいかを考えていかなければなりません。本日のこの「水を考えるつどい」が、水資源や水の恵みに対する皆様方の関心を高め、理解を深めることに寄与すれば幸いに存じます。

最後に、水の週間行事に対する、皆様の今後とも変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げまして、私からの挨拶とさせていただきます。

平成24年7月27日

水の週間実行委員会会長 虫明 功臣

第36回「水の週間」行事の概要

行 事	実 施 内 容	主 催 者 等
水の週間中央行事	1. 水を考えるつどい 日時:平成24年7月27日(金) 13:30～16:45 場所:科学技術館(地下2階サイエンスホール) 内容:①主催者挨拶 ②全日本中学生水の作文コンクール最優秀賞(披露) ③シンポジウム テーマ「水の恵みを未来に～健全な水循環の再生を目指して～」 Ⅰ部 復興まちづくりにおける水インフラ Ⅱ部 健全な水循環の再生 2. 水の展示会 日時:平成24年8月3日(金)～5日(日) 10:00～16:00 場所:東京都下水道局 虹の下水道館(有明水再生センター5階) 内容:水の週間のテーマに沿った各種展示のほか、平成24年度水資源功績者を紹介。また、全日本中学生水の作文コンクール優秀賞作品、水とのふれあいフォトコンテスト入賞作品を展示	主催:国土交通省 東京都 実行委員会 (注) 後援:文部科学省 厚生労働省 農林水産省 経済産業省 環境省 (独)水資源機構 公益財団法人 日本科学技術振興財団 日本放送協会 一般社団法人 日本新聞協会
水資源功績者表彰	水資源行政の推進に関し、特に顕著な功績のあった個人並びに団体に対して、国土交通大臣表彰を授与	主催:国土交通省
第34回全日本中学生水の作文コンクール	「水について考える」をテーマとして、中学生による水の作文コンクールを実施 都道府県の各地方審査等を経た作品を中央審査会で審査し、優秀作品に対して、国土交通大臣賞等を授与	主催:国土交通省、都道府県 後援:文部科学省 全日本中学校長会 (独)水資源機構、実行委員会
第27回水とのふれあいフォトコンテスト	「水辺の憩い、水のある風景」、「暮らしの中で毎日使う水」、「作物や草木を育て、エネルギーを生む水」などをテーマとしてフォトコンテストを実施 優秀作品に対して、国土交通大臣賞等を授与	主催:実行委員会 後援:国土交通省、東京都 (独)水資源機構
水の週間記念第32回隅田川レガッタ	日時:8月12日(日) 10:00～16:30 場所:隅田川(言問橋～吾妻橋間) 内容:一般・中学生等によるエイト、ナックルフォアを実施 隅田川レガッタと隅田川浄化用水に関する啓発活動	主催:一般社団法人 東京都ボート協会 後援:国土交通省、東京都 (独)水資源機構 実行委員会外
利根川水系上下流交流会	流域として密接なかかわりを有する上下流の交流を目的として開催 「利根川源流讃歌」による上下流交流 6月23日(土)	主催:利根川源流賛歌実行委員会 協賛:(社)関東建設弘済会 後援:国土交通省外
利根川水系上下流交流会	流域として密接なかかわりを有する上下流の交流を目的として開催 「草木湖まつり」での上下流交流 8月15日(水)	主催:群馬県みどり市外 協力:東京都墨田区 東京都水道局、実行委員会
水の週間一斉打ち水大作戦	日時:8月1日(水)～8月7日(火) 場所:趣旨に賛同いただける団体の建物前外 内容:雨水や風呂の残り湯など、水道水以外の水を有効利用し、クーラーにない「涼」を実感	主催:国土交通省、都道府県外
施設見学会	ダムや浄水場などの水資源開発施設の見学会を各都道府県並びに(独)水資源機構等において実施	主催:都道府県 (独)水資源機構外
その他	・全国各地で①講演会、②展示会など多彩な催しを実施 ・ポスターの配布・掲示 ・啓発冊子(日本の水)の配布	

(注)「実行委員会」とは、「水の日」・「水の週間」の趣旨に賛同し、政府による「水の週間」の各種の啓発活動と一体となった諸行事を積極的に実施することを目的として、水に関係の深い団体により設立された「水の週間実行委員会」を指すものです。

水の週間中央行事「水を考えるつどい」



平成24年7月27日（金）、北の丸公園（東京都千代田区）内の科学技術館（サイエンスホール）において、150名を超える方にご来場いただき、「水を考えるつどい」を開催しました。

「水を考えるつどい」では、主催者である小澤敬市国土交通省国土交通審議官、飯尾豊東京都都市整備局長及び虫明功臣水の週間実行委員会会長によるご挨拶の後、「第34回全日本中学生水の作文コンクール」最優秀賞の披露として、受賞者の大山拓実さんに受賞作品を朗読いただきました。その後、「水の恵みを未来に～健全な水循環の再生を目指して～」をテーマに、シンポジウムを行いました。

会場では「平成24年度水資源功績者」、「第34回全日本中学生水の作文コンクール」及び「第27回水とのふれあいフォトコンテスト」入賞作品等の展示も行いました。

◆主催者挨拶



小澤敬市国土交通省国土交通審議官



飯尾豊東京都都市整備局長



虫明功臣水の週間実行委員会会長

◆第34回全日本中学生水の作文コンクール最優秀賞（披露）



第34回全日本中学生水の作文コンクール
最優秀賞 大山拓実さん
(茨城県筑西市立下館中学校2年)

◆シンポジウム

【Ⅰ部：復興まちづくりにおける水インフラ】

①「しなやかな水のライフラインに向けて」

東京大学大学院工学系研究科附属水環境制御研究センター 古米弘明教授



東日本大震災の教訓を踏まえ、低炭素化・省エネ型システムに向けた水インフラの推進、災害を柔軟に受け止めて対応できる冗長性、集中と分散を調和させたしなやかさのある水のライフラインの進むべき方向について講演。

②「世界に誇れる『美しいまち』大槌の創造を目指して」

岩手県大槌町 高橋浩進副町長



大槌町では、復興まちづくりのコンセプトを「海に見える、つい散歩したくなる、こだわりのある『美しいまち』」としている。その実現に向けて、地域の資源である「湧水」などを活用した取組について講演。

③「『甦る水』の再生」

宮城県中南部下水道事務所 飯坂利弘技術次長



壊滅的な施設被害から、放流水質改善のため段階的に処理機能の回復を進め、ようやく水処理全体の3分の2が復旧。年度内の完全復旧に向けた取り組みについて講演。

【Ⅱ部：健全な水循環の再生】

④「小水力の長所と課題」

茨城大学農学部 小林久教授



エネルギー資源としての特性、技術や固定価格買取下の経済性などの観点からの小水力の可能性と長所を、事例を紹介しながら示し、さらに導入上の留意点や解決すべき課題について講演。

⑤「森を守り、水を育む活動」

サントリーホールディングス(株)エコ戦略部 山田健チーフスペシャリスト



2003年に始めた「森を守り、水を育む活動」は、地下水の持続可能性を求めて、今では12都府県15箇所、総面積7,500haに広がっている。企業の社会貢献ではなく、本業として取り組む様々な研究と森林整備について講演。

⑥「住宅・建築物の節水化」

(独)建築研究所 山海敏弘上席研究員



産官学の連携組織である「巧水（たくみ）スタイル推進チーム」が進める節水の普及・啓発活動や、雨水の有効活用、住宅・建築物における節水技術の活用手法等について講演。

【Ⅲ部：質疑・応答】



◆入賞作品等の展示



平成24年度水資源功績者



第34回全日本水の作文コンクール



第27回水とのふれあいフォトコンテスト

水の週間中央行事「水の展示会」

平成24年8月3日（金）から5日（日）までの3日間、東京都下水道局 虹の下水道館（有明水再生センター5階）において、水の週間中央行事「水の展示会」を開催しました。

「水について調べてみよう」をテーマとして、今年も多くのお組織、団体による多彩な展示が行われました。また、「平成24年度水資源功績者」、「第34回全日本中学生水の作文コンクール」及び「第27回水とのふれあいフォトコンテスト」入賞作品等を展示しました。

展示期間中は、参加体験型のコーナーが設けられるなど、各出展団体による趣向を凝らした展示が行われ、900名を超える方々にご来場いただきました。

◆展示テーマ 「～水について調べてみよう～」

【主催者展示】

「世界の水・日本の水」	【国土交通省】
「なるほど！だから「安心」東京水」	【東京都下水道局】
「水資源機構50周年」	【独立行政法人 水資源機構】

【一般展示】

「鶴見川流域水協議会」	【国土交通省 関東地方整備局】
「途上国の人々に生命（いのち）の水を！」	【独立行政法人 国際協力機構】
「ダムなんでも相談室 ～電気が足りない今～」	【一般社団法人 ダム工学会】
「疏水の恵みを未来へ継承していこう」	【公益社団法人農業農村工学会・全国水土里ネット】
「水のふるさと 森林」	【（社）日本治山治水協会】
「水の恵みを享受できる世界を目指して」	【特定非営利活動法人 日本水フォーラム】
「第17回「豊かで住みよい国づくり」フォトコンテスト」	【（社）建設広報協議会】
「巧水（たくみ）スタイル推進チームとは？」	【巧水（たくみ）スタイル推進チーム】
「エコ×エネ体験プロジェクト」	【水の週間実行委員会 〔協力：電源開発（株）〕】

【特別展示】

「平成24年度水資源功績者」	【国土交通省】
「第34回全日本中学生水の作文コンクール」	【国土交通省・都道府県】
「第27回水とのふれあいフォトコンテスト」	【水の週間実行委員会】



東京都下水道局 虹の下水道館（有明水再生センター）

「水の恵みを未来に ～健全な水循環の再生を目指して～」

「主 催 者 展 示」



【国土交通省】

「世界の水・日本の水」

普段何気なく使っている水について、世界の現状と日本の現状等を紹介。



【東京都水道局】

「なるほど！だから「安心」 東京水」

水道水の安全性及び安全確保の取り組み、また、くみ置き・節水など非常時に備えた対応について、パネルや模型を用いて紹介。



【独立行政法人 水資源機構】

「水資源機構50周年」

水資源機構発足50周年について周知するとともに、水資源機構の事業等について紹介。

「一般展示」



【国土交通省 関東地方整備局】
「鶴見川流域水協議会」

「鶴見川流域水マスタープラン」の必要性等への理解を深めていただくため、パネルや模型を用いて紹介。



【独立行政法人 国際協力機構】
「途上国の人々に生命（いのち）の水を！」

日本において日々何気なく消費している水が、開発途上国、特にアフリカではいかに貴重であり、人々はいかに少ない水で暮らし、水を得るためにどれだけ苦勞しているのかを紹介。



【一般社団法人 ダム工学会】
「ダムなんでも相談室～電気が足りない今～」

「本物・手作り・参加型」を基本に水力発電模型の実演やダムクイズなどを通して、来場者の疑問にダム博士が答えると共に、ダムへの正しい理解や知識についての啓発活動を実施。

「一般展示」



【公益社団法人農業農村工学会

・全国水土里ネット】

「疏水の恵みを未来へ継承していこう」

歴史的に構築された疏水の恵みや、農業を通じて育まれる文化や農村環境について、パネルや写真、模型等展示、クイズを通じて啓発活動を実施。



【(社) 日本治山治水協会】

「水のふるさと 森林」

水を育む森林について、森林の働き等をパネルで紹介する。

また、全国各地で販売されている森林（もり）の水（ペットボトル）の展示と水の試飲（3種類）を実施。



【特定非営利活動法人 日本水フォーラム】

「水の恵みを享受できる世界を目指して」

途上国における飲み水や衛生環境改善のための支援の活動（井戸や雨水貯留タンクの建設、トイレの建設等）を紹介。

「一般展示」



【巧水（たくみ）スタイル推進チーム】
「さりげなく節水・水を賢く使う社会へ」

「巧水（たくみ）スタイル」とは、賢く水を使う社会ということ。普通に生活をする中でこんなにも簡単に水を賢く使うことができるのだということをパネルで紹介。



【(社) 建設広報協議会】
「第17回「豊かで住みよい国づくり」
フォトコンテスト」

第17回「豊かで住みよい国づくり」
フォトコンテストの作品をパネル展
示。



【水の週間実行委員会 [協力：電源開発(株)]】
「エコ×エネ体験プロジェクト」

“体験” “協働” “学びあい” そ
して“楽しむこと”を大切にし、電気
をつくる仕組みや森の役割を体感する
楽しい実験で、水、森、電気のつなが
りを紹介。

「特別展示」



【国土交通省】

「平成24年度水資源功績者」

水資源行政の推進に当たって、特に顕著な功績のあった受賞者の功績概要について紹介。



【国土交通省・都道府県】

「第34回全日本中学生水の作文コンクール」

全日本中学生水の作文コンクールの優秀作品を紹介。



【水の週間実行委員会】

「第27回水とのふれあいフォトコンテスト」

水とのふれあいフォトコンテストのグランプリ及び優秀賞作品を紹介。

平成 2 4 年度水資源功績者表彰

水資源行政の推進に当たって、特に顕著な功績のあった個人及び団体が、平成 2 4 年度水資源功績者として表彰されました。水源地域対策、水環境の保全、水源涵養、水資源の有効活用等に永年にわたって尽力されたことが表彰の対象となり、平成 2 4 年 8 月 1 日(水)に国土交通省特別会議室において羽田雄一郎国土交通大臣から表彰状が授与されました。

[個人] 3 名

受賞者	功績概要
えもと たかいち 江本 隆一 (山梨県)	長年にわたり富士川中流域での森林整備を通じて、水源林造成並びに水源かん養の推進に尽力された。
なら あきひこ 奈良 明彦 (山梨県)	長年にわたり上野原用水の整備・管理運営に尽力され、地域農業の発展と水資源の安定供給に貢献されるとともに、地域の総合学習にも貢献された。
なかむら しょうじ 中村 捷二 (静岡県)	西遠地域地下水利用対策協議会の役員として、浜松地域の地下水位の回復や地下水塩水化地域の縮小などの地下水利用障害の改善、地下水保全意識の啓発等にご貢献された。

[団体] 8 団体

受賞者	功績概要
かなやま すいげん ちい き 金山ダム水源地域ビジョン 推進連絡会 (北海道)	金山ダム周辺地域の保全及び利用について組織的かつ継続的な活動を実施するとともに、全国へ事例提供を行うなど水資源行政にご貢献された。
ふくしまけんりつ お の こうとうがっこうひらたこう 福島県立小野高等学校平田校 (福島県)	学校行事である「炭焼き体験学習」で作成した木炭を活用して、地域の河川の浄化活動にご貢献された。
とうきょうと すいどうきょく た ま がわ すいげん 東京都 水道局 多摩川水源 森林隊 (東京都)	多摩川上流域の荒廃した人工民有林を、「水源地にふさわしい緑豊かな森」に再生するため、ボランティアの方々を主体とした森林保全活動を積極的に実施された。
さかわがわすいけいほげんきょうぎかい 酒匂川水系保全協議会 (神奈川県)	酒匂川流域における上流から下流まで県・市町村を越えて、流域全体で環境・水質保全のための諸活動に取組み、将来の良好な河川環境の形成にご貢献された。

にしやましんりんせいびすいしんきょうぎかい 西山森林整備推進協議会 （京都府）	森林所有者・地域住民・企業・NPO・大学・行政の協働により、荒廃が進んでいた長岡京市の森林整備に取り組むとともに、多くの人に山への親しみや興味をもってもらうため、森林ボランティア行事・養成講座や子供たちの体験型環境教育を積極的に実施された。
さやまいけ 狭山池まつり実行委員会 （大阪府）	ふるさとの誇りである「狭山池」をいつまでも美しく未来に繋ぐため、水道局と協働での水質検査や周辺の美化活動を積極的に実施された。
あさくらぐんやまだぜきとちかいりょうく 朝倉郡山田堰土地改良区 （福岡県）	歴史的価値の高い山田堰を長年にわたり適切に維持管理し、農業用水の安定確保と自然エネルギーを有効利用した用水供給を行うとともに、地域の人々と連携した清掃活動や小学生への水の学習を行うなど環境意識の向上に貢献された。
ふくおかとしけんこういきぎょうせいじぎょう 福岡都市圏広域行政事業 組合 （福岡県）	福岡都市圏と水源地域との相互理解や連携を深めるための流域連携基金を設置し、流域自治体や地域の人々と協力して、相互の交流や地域振興、水源地の保全等の推進に貢献された。



第34回全日本中学生水の作文コンクール

全国の中学生及び海外に居住する日本人中学生を対象に、「水について考える」をテーマとする「全日本中学生水の作文コンクール」を開催しました。第34回を迎えた今年は、総数16,826編の応募がありました。各都道府県での応募作品について各都道府県で地方審査等が行われ、優秀とされた作文（各都道府県3編以内）が中央審査対象として送付され、その数は125編にのびました。これら125編の中から、中央審査会において、最優秀賞1編、優秀賞5編及び入選33編が選ばれ、平成24年8月1日(水)に国土交通省特別会議室において羽田雄一郎国土交通大臣から表彰状が授与されました。

今回の実施状況は、次のとおりです。

(1) 主催等

主催：国土交通省、都道府県

後援：文部科学省、全日本中学校長会、水の週間実行委員会、独立行政法人水資源機構

(2) 募集要領

①テ ー マ：「水について考える」（題名は自由）

②原 稿：400字詰原稿用紙4枚以内

③募集期間：平成24年6月15日（金）まで

ただし、外国に居住する者にあつては、平成24年5月25日（金）まで

(3) 応募状況

応募学校数：368校

応募総数：16,826編

(4) 中央審査会審査委員 ※50音順、敬称略

石川 裕 （国土交通省大臣官房審議官）

井上 久夫 （独立行政法人水資源機構理事）

須田 淳一 （全日本中学校長会編集部部长）

須磨 佳津江（キャスター）

長崎 宏子 （スポーツコンサルタント）

松明 淳 （社団法人日本水道協会調査部長）



最優秀賞 国土交通大臣賞

命を支える水

茨城県筑西市立下館中学校二年

大山 拓実

「お水ちょうだい」

小さい頃から、僕の飲み水はいつも水だった。朝も、遊んでのどがかわいた時も、遠足の水筒の中身も。他の食べ物の味をじゃますることなくのどをすっきりとうるおしてくれる所が好きだ。

一歳にならない頃、僕は喘息になった。体も小さく食欲もなかった。二週間に一度通院し、毎日薬を飲む。ひどくなると吸入したり、入院したりした。苦い薬や吸入の煙は、胸の奥までむせかえった。大嫌いだ。でも、家族と離れて入院するのはもつと嫌だったので我慢した。吸入の後の水は、苦みも一緒に体の中へ押し込んでくれるような気がした。嫌なことから解放された安ど感からか、ほつとしながら水を飲んだことをよく覚えている。

三歳になり、スイミングを習い始めた。水の中でふわつと浮く不思議な感じや、水の中で魚のように体を自由自在に動かせる快感から、僕はスイミングに夢中になった。プールでたくさん友達ができ、いろいろな泳ぎ方を覚えることができた。小児科への通院の間隔が開くようになった。

今までじつくり考えたこともなかったが、僕にとって水は、なくてはならない飲み物であり、たつぷりと水を張ったプールは、僕の体を鍛えてくれた大切な場所だった。そして、いつも安心して水を飲んだり楽しく体を動かしたりすることができたのは、僕が日本という水資源に恵まれた国に生まれたからなのだ。

日本は、水資源に恵まれた国だ。周りを海に囲まれ、降水量も多く国土にはたくさん土地が連なっている。山々の森林が作りだす土壌の働きによって、洪水や水不足を防いでいる。そして、森林の浄化作用によりわき水はおいしくなる。この僕が生まれてくるずっと前から行われてきた自然の営みにより、僕達はたくさん恩恵を受けてきた。そして、

日本のすぐれた浄水技術により、浄水場できれいで安心な飲み水として、じゃ口をひねれば、いつでも好きなだけ水は僕達の家に届けられるようになった。

しかし、その一方で、近年森林伐採などの自然破壊、生活排水や排気ガスなどによる環境汚染、放射能汚染などにより、水の安全性が心配されるようになってきている。水は自然の大きな力によって循環している大切な資源であり、森林、空気、川、土壌どれかひとつ欠けてしまつても汚染されてしまうのだ。

だから、僕達は、忘れてはならないと思う。水は飲み水だけではなく、お風呂や洗濯など日常生活をしていく上でなくてはならないものであること、体を鍛えたり心を安らかにさせたりする力があること、農業や工業を支えている大切な資源であること、小動物や植物など地球上の生き物全ての命の源であること、そして資源には限りがあるということ。

限りある水資源を守るために僕達が今できることは何だろう。洗剤の量を減らすこと、ゴミを増やさないこと、植物を増やすこと、水を大切に使うこと……。当たり前にあるおいしく安全な水がなくなってしまう前に、できることから努力しなければならない。

連休に入り、田植えが始まった。水面は太陽の光で輝き、夜にはカエルの鳴き声が聞こえるようになった。田んぼの中にはおたまじゃくしやゲンゴロウが気持ちよさそうに泳いでいる。たくさん生き物がこの田んぼの中にいて、生かされているのだろう。いつもは何気ない風景が、すごいことのように思えた。

水は、全ての命の源である。なくてはならない僕の命も支えてくれている。そう考えながら飲んだ水は、いつもよりずっとおいしく感じた。

第34回全日本中学生水の作文コンクール入賞者一覧

賞名	都道府 県名	作文の題名	ふりがな 氏名	学 年	学校名
最優秀賞 国土交通大臣賞	茨城県	命を支える水	おおやま たくみ 大山 拓実	2	筑西市立下館中学校
優秀賞 全日本中学校長会会長賞	群馬県	水が育む日本の美しさ	しばさき はるな 芝崎 遥奈	1	伊勢崎市立第四中学校
優秀賞 水の週間実行委員会会長賞	福島県	あたり前の生活	おかだ えりか 岡田 愛莉花	2	おおくまよりつおおくまちゅうがっこう 大熊町立大熊中学校
優秀賞 独立行政法人水資源機構理事長賞	愛知県	節水の心を捧げる	いとう まこ 伊藤 正子	2	たきがくえんたきちゅうがっこう 滝学園滝中学校
優秀賞 国土交通省水管理・国土保全局水資源部長賞	徳島県	私の水に思うこと	せきお さくら 笹尾 咲良	1	かみかつちようりつかみかつちゅうがっこう 上勝町立上勝中学校
優秀賞 全日本中学生水の作文コンクール中央審査会特別賞	京都府	「わが家の節水大作戦！」	わ か すがお 和歌 すがお	3	りつめい かんうじちゅうがっこう 立命館宇治中学校
入選（33編）	青森県	川と共に未来へ進む	にしざわ あやね 西沢 彩音	3	ひろさきしりつひがしめちゅうがっこう 弘前市立東目屋中学校
	宮城県	初めて気付いた“水とは何か”	あ べ みき 阿部 美樹	3	いしのまきしりつかなんにしちゅうがっこう 石巻市立河南西中学校
	福島県	私たちの使命	ほし めい 星 愛衣	3	すか がわしりつにしぶくちゅうがっこう 須賀川市立西袋中学校
	栃木県	水の気持ち	いしかわ あやな 石川 絢菜	2	は がちようりつ は がちゅうがっこう 芳賀町立芳賀中学校
	栃木県	心の中まで美しくできる水の力	おおつか ゆうか 大塚 悠花	2	もお か しりつもおかひがしちゅうがっこう 真岡市立真岡東中学校
	群馬県	「水」について私たちができる事	ひ ち わ し ほ 飛知和 志帆	2	ぐんまだいがくきょういぐくふふそくちゅうがっこう 群馬大学教育学部附属中学校
	埼玉県	メイドインさいたまの水	おざき まさひろ 尾崎 正大	3	しりつ おおみやまちゅうがっこう さいたま市立大宮南中学校
	埼玉県	本当の答え	す わ ふみか 諏訪 史香	3	くまがやしりつ ふ じ みちゅうがっこう 熊谷市立富士見中学校
	千葉県	あたり前じゃない	おおたき はるか 大滝 遥香	1	ちば めい とくちゅうがっこう 千葉明徳中学校
	東京都	「水」に感謝して生きる	こ はら まさき 小原 真樹	2	とうきょうとみなとくりつ み た ちゅうがっこう 東京都港区立三田中学校
	東京都	「水を通してみえたこと」	こばやし かなり 小林 亜伽里	2	せいびがくえんちゅうがっこう 星美学園中学校
	神奈川県	ダムの底に眠るふるさと	は が ゆうか 芳賀 夕佳	3	やまきたちようりつ み ほ ちゅうがっこう 山北町立三保中学校
	山梨県	湯水のごとく	おだいら もりと 小平 守都	2	やまなししりつやまなしきたちゅうがっこう 山梨市立山梨北中学校
	岐阜県	当たり前ではない水	み はら ゆうほ 三原 優歩	3	み の しりつしやうわちゅうがっこう 美濃市立昭和中学校
	静岡県	水への心掛け	こじま しん 小嶋 心	2	こさいしりつしらす かちゅうがっこう 湖西市立白須賀中学校
	愛知県	「水は命の源」	なかがわ りりか 仲川 凜香	3	とよはししりつなん がちゅうがっこう 豊橋市立南部中学校
	三重県	「水の伝統を次の世代に」	あかつか かなみ 赤塚 叶美	2	じょし がくえんちゅうがっこう セントヨゼフ女子学園中学校
	滋賀県	水を守ること＝知ること	おかうじ ことの 岡氏 琴野	3	ひ こねしりつみなみちゅうがっこう 彦根市立南 中学校
	滋賀県	水との距離	やまおか りさ 山岡 莉沙	3	もりやましりつもりやまちゅうがっこう 守山市立守山中学校
	京都府	伝統工芸を支えるもの	つじ あんな 辻 晏奈	3	きょうとがくえんちゅうがっこう 京都学園中学校
	京都府	水の世界	なかむら きこ 中村 葵子	1	きょうとがくえんちゅうがっこう 京都学園中学校
	大阪府	私たちの水	ふくだ なつき 福田 菜月	1	おおさかきょういくだいがくふぞく い げ だちゅうがっこう 大阪教育大学附属池田中学校
	広島県	世界の水と日本	せがわ な こ 瀬川 菜々子	3	ひろしましりつしやうやまきたちゅうがっこう 広島市立城山北中学校
	山口県	限りある大切な資源	うえだ こうへい 上田 幸平	2	やまぐちけんりつたかもり ちゅうがっこう 山口県立高森みどり中学校
	徳島県	水と未来	ひがしら みずほ 東浦 瑞歩	2	かみやまちようりつかみやまひがし ちゅうがっこう 神山町立神山東 中学校
	香川県	命の水	たけうち さおり 竹内 沙織	3	あやがわちようりつりやうなんちゅうがっこう 綾川町立綾南中学校
	高知県	水への感謝をもって	やまもと ま ゆ 山本 麻由	2	こうち がくげい ちゅうがっこう 高知学芸中学校
	福岡県	胸を張って言える日まで	かわぐち あやか 河口 綾華	2	ふくおかきょういくだいがくふぞく くる め ちゅうがっこう 福岡教育大学附属久留米中学校
	佐賀県	ふるさとの水を想う	まさき ゆりか 真崎 由梨佳	1	がっこうほうしんまつ おがくえんこうがくかんちゅうがっこう 学校法人松尾学園弘学館中学校
	長崎県	きれいな水の大切さ	なかお まさみ 中尾 雅美	3	い き しりつ あしべちゅうがっこう 壱岐市立芦辺中学校
	宮崎県	我が家の節水デー	かわにし ゆり 川西 由莉	3	みやざきけんりつみやざきにしこうとうがっこう 宮崎県立宮崎西高等学校 ふ ぞく ちゅうがっこう 附属中学校
	沖縄県	守るべき大切なもの	げんか み の り 源河 美乃里	3	み や こ じ ま しりつすながわちゅうがっこう 宮古島市立砂川中学校
	海外(中国)	水の都 杭州を目指して	おがわ きとし 小川 哲史	1	こうしゅうに ほんじんがっこう 杭州日本人学校

第27回水とのふれあいフォトコンテスト

主催等 主催 水の週間実行委員会
 後援 国土交通省、東京都、独立行政法人水資源機構
 協賛 富士フイルムイメージングシステムズ株式会社

テーマ ・ 水辺の憩い、水のある風景
 ・ 暮らしの中で毎日使う水
 ・ 作物や草木を育て、エネルギーを生む水
 ・ ダムや水路など水をつくる施設
 ・ 歴史とともにある街の中の水 等

募集期間 平成24年4月16日（月）～6月15日（金）

応募状況 総計 2, 136点

作品展示 平成24年7月27日（金）
 科学技術館（地下2階サイエンスホール）
 平成24年8月3日（金）～5日（日）
 虹の下水道館（有明水再生センター5階）

審査員（敬称略）

中谷 吉隆 （写真家）
内田 勲 （写真家）
片岡 友理 （著述家）
石川 裕 （国土交通省大臣官房審議官）
飯尾 豊 （東京都都市整備局長）
千田 淳 （水の週間実行委員会運営委員長）

※ この「水とのふれあいフォトコンテスト」は、「河川整備基金」の助成を受けて実施しております。

「河川整備基金」は、河川整備を民間の協力を得て緊急に推進するため、政府の協力（閣議了解）に基づき昭和63年度に設立され、国民各層・企業・全国の地方募金委員会等が資金を拠出（寄付）して造成されているものです。

この基金の運用益（利息）から、安全で良好な“河川環境”を目指してよりよい“川づくり”に役立つ様々な活動に対して支援を行うことによりわが国の河川整備の効率的な推進に寄与することを目的としています。

河川整備基金では、これらの目的のために河川・ダム・砂防・海岸等に関する調査・試験・研究、環境整備対策、国民的啓発運動の様々な活動に対して助成を行っています。

【第27回水とのふれあいフォトコンテスト受賞者】

〔グランプリ〕 1名

○ 国土交通大臣賞

いしづか たかひろ
石塚 賢宏（熊本県）

画題：「一斉放水」



〔優秀賞〕 3名

○ 東京都知事賞

さいとう つとむ
斎藤 力（東京都）

画題：「みんなで神輿とワッショイ」



○ 水の週間実行委員会会長賞

いのうえ よしかず
井上 佳計（東京都）

画題：「水玉の中のタワー」



○ 独立行政法人水資源機構理事長賞

あいざわ かずのり
會澤 和則（茨城県）

画題：「眼下の竜」



〔特別賞〕 1名

○ 富士フイルム
イメージングシステムズ賞

みずの ふみひこ
水野 文彦（愛媛県）

画題：「水遊び」



〔特 選〕 5名

「気合」	福 岡 育 代（東京都）
「いのちを植える」	大 栗 隆 夫（徳島県）
「ひと休み」	米 倉 辰 雄（東京都）
「楽水」	川 内 秀 喜（徳島県）
「かぐや姫の川下り」	廣 澤 節 親（岡山県）

〔入 選〕 10名

「冬景遊覧」	水 野 敬 雄	「新緑の川舟ながし」	藤 井 康 男
「涼を求めて」	石 角 尚 義	「釣り人」	城 戸 敦 子
「漕艇」	今玉利 修 司	「水辺の特等席」	泉 健 一
「水田玉いれ」	早 川 英 夫	「滝に泳ぐ」	中 川 雄 喜
「東京ホテル見物」	鹿 島 秀 夫	「軽トラックの露天風呂」	村 上 泉

水の週間記念 第32回隅田川レガッタ

隅田川は、水資源開発公団（現（独）水資源機構）武蔵水路事業により河川水を荒川から隅田川に導入する浄化用水の効果と東京都における下水道の整備事業が進んだことと、近年行われている新しい水辺空間の創出の効果とが相乗し快適な水辺空間を多くの市民に提供できる憩いの場となりました。

高度経済成長期以降の劣悪な水質に著しい変化を遂げ水質の浄化が進んだことにより人々の生活の場に再び戻ってきた隅田川の姿を喜び、水に親しむ“水の週間”行事の一環として昭和56年から開催され、春の早慶レガッタとともに夏の隅田川の風物詩として定着してきた「隅田川レガッタ」も今年で32回目を迎えました。

今年の隅田川レガッタは、天候にも恵まれた中での開催となり、レース前には恒例となっている主催者による競漕の安全とレガッタ開催の告知を兼ねた浅草寺への安全祈願を行いました。

多くの観客（約5,000名）が見守る中、参加登録58クルー（選手486名）にのぼる参加者の競漕と応援による熱戦が繰り広げられ、日頃から鍛えた自慢の腕を披露し観客からは惜しめない拍手が送られました。また、墨田区内の中学校吹奏楽部による「水のコンサート」や墨田区太鼓連盟による勇壮な和太鼓の応援演奏も行われ、水の週間記念隅田川レガッタの開催に華を添えました。

日 時	平成24年8月12日（日）10:00～16:30
コ ー ス	隅田川言問橋～吾妻橋（500m）
主 催	一般社団法人東京都ボート協会
後 援	国土交通省、東京都、墨田区、台東区、墨田区教育委員会、 独立行政法人水資源機構、公益社団法人日本ボート協会、 水の週間実行委員会
特別協力 協 力	墨田区立中学校吹奏楽部（立花・堅川）、墨田区太鼓連盟 日本赤十字社東京都支部、関東漕艇学生連盟、社団法人東京港運協会、 全国内航タンカー海運組合、屋形船東京都協同組合、向島五丁目西町会、 東京都観光汽船株式会社、隅田川市民交流実行委員会、江東明るい社会づくり の会、墨田明るい社会づくりの会、台東明るい社会づくりの会、隅田川ローイ ングクラブ、金曜会
協 賛	墨田区観光協会、墨田川市民交流実行委員会、すみだ郷土文化資料館 アサヒビール株式会社、アサヒ飲料株式会社、東京都観光汽船 ライオン株式会社、隅田川文庫、船宿あみ清、船宿釣新、株式会社古川組 東京ガス株式会社、株式会社セレスポ、リバーピア吾妻橋ライフタワー自治会 ホテルニュー魚眼荘、屋形船東京都協同組合、向島五丁目西町会
競 漕	26レース
競漕種目	①一般男子エイト ②中学男子ナックルフォア ③中学女子ナックルフォア ④一般男子ナックルフォア ⑤一般女子ナックルフォア ⑥区市町村対抗ナックルフォア ⑦ボート教室対抗ナックルフォア



力漕するクルー



和太鼓による応援演奏

水の週間記念 第32回隅田川レガッタ競漕結果

クルー名	順位	クルー名	順位
【一般男子エイト】		【区市町村対抗ナックルフォア】	
警視庁ボートクラブ	優勝	江戸川区役所ボート部	優勝
日本ボートマンクラブ	準優勝	墨田区漕艇部	準優勝
団塊号・無限	3	堅川中学校教員チーム	3
駿台艇友会	4	MIZUボートーy	4
セントポールRC・団塊号連合	5		
パルテ会	6	【ボート教室対抗男子ナックルフォア】	
一橋大OB 50's	7	ヤングタマちゃんズ	優勝
白門艇友会「ちから」	8	レガッタクラブフレンドシップ	準優勝
四神会 70's	9	江戸川区ボート協会	3
江戸川区ボート協会	10	アイリス	4
MBCシニア	11		
横浜漕艇倶楽部	12	【ボート教室対抗女子ナックルフォア】	
大倉107	13	レディーズタマちゃんズ	優勝
ダークブルーズ	14	江戸川区ボート協会	準優勝
マスターズタマちゃんズ	15	江戸川区ボート協会(小学生)A	3
碧水会	16	江戸川区ボート協会(小学生)B	4
中央大学杉並高校	17		
学習院桜艇会	18	【一般男子ナックルフォア】	
中大理工ボートクラブ	19	団塊号・白虎	優勝
		かわせみ	準優勝
【中学男子ナックルフォア】		Open & Positive	3
堅川中A	優勝	HARAKIRI SAMURAI BLUE	4
江戸川区ボート協会A	準優勝	墨田川RC	5
堅川中B	3	ポートエリザベス号	6
錦糸中学男子B	4	Chiyo Row 倶楽部	7
錦糸中学男子A	5	メタセコイア	8
江戸川区ボート協会B	6	MIZUボート	9
錦糸中学男子D	7	昭和時代	10
錦糸中学男子C	8	SUMMER-WRC	11
		レークサイドローイングクラブ	12
【中学女子ナックルフォア】		江戸川区ボート協会	13
堅川中E	優勝		
堅川中D	準優勝	【一般女子ナックルフォア】	
堅川中C	3	パルテ会	優勝
		ママさんパワーズ	準優勝
		G. G. Generation	3

利根川水系における上下流交流

○「草木湖まつり」における上下流交流

8月15日（水）、群馬県みどり市東町の草木ダム下流の東運動公園において、約 15,000 名の方が来場し、「第35回草木湖まつり」が開催されました。

普段、私たちは当たり前のように水を利用していますが、その水を生み出すために、住み慣れた先祖伝来の土地から移り住んでいただくなど、水源地域の方々の大変なご苦労とご協力があったことはあまり知られていません。

草木湖まつりは、草木ダム建設に伴い移転した旧東村の移転者の方々に、年に一度はふるさとで楽しい日を過ごしていただきたいという想いと、利根川水系の水源地域の方々と下流流域で水を使用する人々との相互理解・相互交流を図り、上下流交流を促進しようという目的で開催されています。

当日は、メイン会場の東運動公園で「マスのつかみ取り」や「東京水のPR」など様々なイベントが行われたほか、草木ダムの見学会や上下流交流の一環として下流受益地である東京都から墨田区太鼓連盟の方々が参加し、あづま太鼓による勇壮な演奏を披露してお祭りを盛り上げました。



マスのつかみ取り



草木ダム探訪

○「利根川源流讃歌」における上下流交流

6月23日（土）、群馬県みなかみ町藤原の屋倉体育館において、「利根川源流讃歌」第12回発表会が開催されました。

「利根川源流讃歌」は、利根川の源流域で生きる人々や自然をたたえる12曲で構成されており、流域として密接なかかわりを有する上下流の交流を目的として開催されています。

当日は、天候にも恵まれ、群馬県内外から集まった小学生から90歳を越える人々250人の歌声は、体育館いっぱいにあふれ、奥利根の山々、利根川の水源地に響き渡りました。



「利根川源流讃歌」第12回発表会

水の週間一斉打ち水大作戦

○ 水の週間一斉打ち水大作戦 in 国土交通省の状況

平成24年8月1日（水）昼休みに、中央合同庁舎3号館正面玄関前にて「水の週間一斉打ち水大作戦 in 国土交通省」を実施しました。

国土交通省職員の手作りによる「打ち水」イベントも、今年で9回目となり、夏の恒例行事として知られるようになってきました。平成21年度から「水の日」・「水の週間」に併せた「水の週間一斉打ち水大作戦」として取り組んでおり、今回の国土交通省で実施した取り組みも、その一つです。打ち水は、原則として、お風呂の残り湯や下水再生水などといった二次利用水を活用するため、水資源の有効利用に結びつくだけでなく、ヒートアイランド対策にも貢献する取り組みとして、近年見直され、注目を浴びています。

打ち水に使用する水は、東京都下水道局から下水再生水を約700リットルをご提供いただき準備しました。

当日は、羽田大臣、奥田副大臣をはじめ、水管理・国土保全局長以下クールビズや浴衣姿の国土交通省職員のほか、平成24年度ミス日本「水の天使」酒井さん、第34回全日本中学生水の作文コンクールの優秀賞受賞者、水資源功績者表彰の皆さんも加わり、総勢約200人が参加しました。

「打ち水はじめ！」の号令とともに、一斉に撒かれた水により、10分としないうちに、26℃だった気温が24.5℃となりました。また、サーモグラフィ（熱分布画像）の計測では、打ち水前は約39℃だった地面の温度も、約32℃まで下がりました。

皆様も打ち水を通じて水の大切さについて改めて考えてみてはいかがでしょうか。



羽田大臣の挨拶



大臣と作文コンクール受賞中学生、
「水の天使」酒井美帆さん



総勢200人での一斉打ち水



参加者集合写真

国や地方公共団体等での実施状況

国土交通省をはじめとする国の各機関や地方公共団体等においても、水に関する理解を深めるための活動が広範に実施されました。

① ポスターの掲示

「水の恵みを未来に～健全な水循環の再生を目指して～」を共通テーマとして刷り込んだポスター約19,000枚が作成され、関係府省庁、都道府県、市町村、中学校等に配布、掲示されました。

② 冊子の配布

日本の水資源に関する現状と課題等についてわかりやすくまとめ、年齢層を広くカバーできる内容とした一般向け冊子「日本の水」が約20,000部作成され、都道府県をはじめ、市町村や小中学校、報道機関等を対象として、各種展示会、講演会、施設見学会等、水の週間の行事を開催するなかで幅広く配布されました。

③ 地方公共団体等における取り組み

東京においては、水の週間中央行事である「水の展示会」、「水の週間シンポジウム」のほか、水の週間記念隅田川レガッタが実施されました。特に、今年度からの活動として、国土交通省水資源部では、巧水（たくみ）スタイル推進チーム※の協力のもと、「子ども霞ヶ関見学デー」に合わせて、「水について考えてみよう！」をテーマに、展示会を実施しました（p.26 参照）。

各都道府県等においても、講演会やシンポジウム、施設見学会、上下流交流会、水の展示会、全日本中学生水の作文コンクールの地方表彰等の各種活動が実施されました（p.27 参照）。

特に、巧水（たくみ）スタイル推進チーム及び松山市が主催となり、「「水は宝」～水を賢く使う社会の実現に向けて～」をテーマとしたシンポジウムが開催され、国内外の節水に関する取り組み等について紹介されました（P.26 参照）。

※巧水（たくみ）スタイル推進チーム

節水意識の向上、節水型ライフスタイルの定着、節水機器・技術の普及等を目指し、産業界が中心となって、業界団体、学識者、地方自治体等が参画する活動チーム（2011年5月に発足。）

水の週間記念シンポジウム in 松山

「水は宝」～水を賢く使う社会の実現に向けて～

日時 平成24年8月8日（水） 13:30～16:30

場所 松山市総合コミュニティセンター（愛媛県松山市湊町7丁目5番地）

主催 巧水（たくみ）スタイル推進チーム、松山市

内容 “水を賢く使う社会”の実現のためには、国民一人ひとりが水を大切にする意識を持つことに加え、無意識のうちに、いつの間にか節水できている機器・技術の普及が重要。シンポジウムでは、「水は宝」との共通認識のもと、国内における最新節水技術とその効果、各自治体の節水に関する取り組みや、海外の節水に関する最新事情を紹介し、水を賢く使う社会の実現に向けて議論。

巧水（たくみ）スタイル推進チームHP：<http://www.takumi-team.jp/>



シンポジウム会場



パネルディスカッション

子ども霞ヶ関見学デー

～水について考えてみよう！～

日時 平成24年8月8日（水）～9日（木）

場所 合同庁舎3号館10階共用会議室（東京都千代田区霞ヶ関2-1-3）

主催 国土交通省水資源部水資源政策課（巧水（たくみ）スタイル推進チーム協力）

内容 水の重要性、貴重さなどの理解を深めるパネル展示、全日本中学生水の作文コンクール優秀作品等を展示。水を大切に使う方法を分かりやすく体験できる「巧水（たくみ）スタイルヒント！ボード」を展示。



見学会の様子



巧水スタイルヒント！ボード

第36回「水の週間」（平成24年度）都道府県等行事一覧

項目 都道府県名	ポスター	パンフレット	映画会・音楽会・研修会 講演会・シンポジウム等	上下流交流 施設見学会等	街頭キャンペーン	展示会等	水の作文コンクール	広報・PR活動等					
								テレビ	ラジオ	新聞	広報紙	ホームページ	電光掲示板・横断幕 懸垂幕・横断幕
全国	47	47	7	20	6	16	47	4	9	10	15	35	13
北海道	○	○		☆			◎					○	
青森県	○	○					◎					○	○
岩手県	○	○					◎					○	
宮城県	○	○					○						
秋田県	○	○					○						
山形県	○	○					○						
福島県	○	○	○	◎		☆	◎		○			○	
茨城県	○	○		◎			◎	○				○	
栃木県	○	○					◎		○			○	○
群馬県	○	○	○	○			◎						
埼玉県	○	○					◎				○	○	○
千葉県	○	○				○	◎				○	○	○
東京都	○	○	○			○	◎		○	○	○	○	
神奈川県	○	◎				◎	◎				○	○	
新潟県	○	○					◎			○		○	
富山県	○	○					◎			○		○	
石川県	○	○					◎						
福井県	○	○		○		○	○			○	☆		
山梨県	○	○					○						
長野県	○	○				○	○						○
岐阜県	○	○		○			◎		○			○	
静岡県	○	○	○	☆			◎					○	◎
愛知県	○	○		☆		◎	◎				◎	○	
三重県	○	○		☆			◎					○	
滋賀県	○	○					◎					○	
京都府	○	○				○	◎				○		
大阪府	○	○		☆	☆		◎				☆	◎	☆
兵庫県	○	○					◎						
奈良県	○	○		◎		◎	◎	○			○	○	
和歌山県	○	○					◎		○		○	○	
鳥取県	○	○		◎			○						
島根県	○	○					◎			○		○	
岡山県	○	○		○			○						
広島県	○	○		☆			◎					○	
山口県	○	○					◎					○	
徳島県	○	○			◎	☆	◎					◎	○
香川県	○	○		◎		○	◎			○	☆	○	
愛媛県	○	○	◎	◎		◎	◎		○	◎		◎	☆
高知県	○	○		☆	◎		◎				○	○	
福岡県	○	○		☆	◎		◎				○	○	○
佐賀県	○	○		☆		○	◎			○	○	○	
長崎県	○	○			☆	☆	◎	☆	☆	◎	☆	◎	
熊本県	○	○	○		○	○	◎	○	○	○		○	○
大分県	○	○		☆			◎		○			◎	○
宮崎県	○	○					◎					○	○
鹿児島県	○	○	☆				◎					○	
沖縄県	○	◎				○	◎					○	

注)「ポスター」欄の○は、全国共通版(国土交通省作成)を配布したことを示し、◎は都道府県等で独自に作成したものも配布したことを示す。

「パンフレット」欄の○は、「日本の水」(制作:国土交通省)を配布したことを示し、◎は都道府県等で独自に作成したものも配布したことを示す。

「作文コンクール」欄の◎は、都道府県レベルでの「地方表彰」を行っていることを示す。

それ以外の○は、都道府県が独自に取り組んでいることを示し、◎は都道府県に加え市町村等が独自に取り組んでいることを示す。

☆は市町村等のみが独自に取り組んでいることを示す。

第36回水の週間新聞等報道状況

月 日	新聞等名	地域	見 出 し
4月7日	夕刊デیلیー	地方	第34回「全日本中学生水の作文コンクール」作文募集
4月8日	宮崎日日新聞	地方	第34回「全日本中学生水の作文コンクール」作文募集
4月8日	朝日新聞	地方	第34回「全日本中学生水の作文コンクール」作文募集
4月8日	毎日新聞	地方	第34回「全日本中学生水の作文コンクール」作文募集
4月8日	読売新聞	地方	第34回「全日本中学生水の作文コンクール」作文募集
4月8日	西日本新聞	地方	第34回「全日本中学生水の作文コンクール」作文募集
6月15日	福島民報新聞	地方	岡田さんら3人水の作文優秀賞 県コンクール
6月15日	福島民友新聞	地方	岡田さん(大熊)ら優秀賞 県中学水の作文コンクール 県代表に
6月22日	建設産業新聞	全国	「水の恵みを未来に」水の日、水の週間を実施
6月25日	釧路新聞	地方	第34回「全日本中学生水の作文・北海道地方コンクール」優秀賞受賞
6月27日	熊本日日新聞	地方	中学生・水の作文コン 県大賞決まる
7/1～8/7	FM大分・OBSラジオ	地方	水の週間
7月7日	愛媛新聞	地方	水の作文コンクール県最優秀賞について
7月14日	福島民報新聞	地方	岡田さん(大熊中)優秀賞 全日本中学生水の作文コンクール
7月14日	福島民友新聞	地方	全日本水の作文コンクール 岡田さん(大熊中)優秀賞
7月14日	福島民友新聞	地方	水資源功績者 小野高平田校が受賞
7月16日	神奈川新聞	地方	コラムで「全日本中学生水の作文コンクール」で入賞した芳賀夕佳さんの作品等について掲載
7月18日	毎日新聞	地方	イベント満載「すいた水循環フェア2012」
7月20日	長崎新聞	地方	「全日本中学生水の作文コンクール」中尾さん(芦辺中3年)が入選
7月20日	東愛知新聞	地方	全日本中学水の作文コンクール入選
7月21日	伊勢新聞	地方	浴衣で打ち水涼しく
7月23日	日刊建設工業新聞	全国	水の週間シンポ「水の恵みを未来に」テーマ
7月25日	神戸新聞	地方	水の作文コンクール 最優秀賞に有井さん作品
7月25日	和歌山新報	地方	高橋さんに優秀賞 「水の作文」和歌山県コンクール
7月26日	山陰中央新報	地方	8月1日～7日は一斉打ち水大作戦！！
7月27日	盛岡タイムス	地方	飯岡中から4人入賞 水の作文県コンクール
7月28日	静岡新聞	地方	みんなの水道・下水道コンクール 浜松市が入賞者発表
7月28日	中日新聞	地方	吹き流し 打ち水涼しく 大曽根七夕まつり開幕
7月29日	テレビ熊本	地方	くまもと水の週間記念式典 開催(TKUニュース)
7月30日	水道産業新聞	全国	「水の週間」水の恵みを未来に～健全な水循環の再生を目指して～
7月30日	読売新聞	地方	こちらはおだやか 打ち水 徳島駅
7月31日	京都新聞	地方	8月1日～7日「水の週間」 水の作文コンクール
7月31日	中日新聞	地方	水の作文コンクール 県庁で表彰式
7月31日	毎日新聞	地方	「命の水」大切に。第36回「水の週間」8月1～7日、8月1日は「水の日」
8月1日	日刊建設工業新聞	全国	第36回「水の日」・「水の週間」水の恵みを未来に～健全な水循環の再生を目指して～
8月1日	建設通信新聞	全国	第36回「水の日」8月1日/「水の週間」8月1日～7日
8月1日	北日本新聞	地方	きょう8月1日は「水の日」
8月1日	奈良新聞	地方	水の日特集
8月1～7日	四国新聞	地方	8月1日から7日は節水ウィークです
8月2日	水道産業新聞	全国	水の日・・・打ち水で涼を呼んで
8月2日	日本水道新聞	全国	第36回「水の日」「水の週間」健全な水循環を再生
8月2日	陸奥新報	地方	「全国中学生水の作文コンクール」西沢さん(東目屋3年)見事入選

8月2日	京都新聞	地方	京を冷やせ！！南区で市職員ら打ち水
8月2日	朝日新聞	地方	熱気ぐんぐん 柳まつり開幕
8月2日	日本海新聞	地方	街に涼 一斉打ち水 湧き水500㍓勢いよく
8月2日	読売新聞	地方	打ち水で商店街涼しく 豊岡駅前 買い物客ら楽しむ
8月2日	熊本日日新聞	地方	くまもと水の週間記念式典 開催
8月3日	山陽新聞	地方	倉敷・西之浦浄水場フェスタ
8月3日	テレビ熊本	地方	くまもと水の週間記念式典 開催(TKUスーパーニュースびゅあピュア)
8月4日	静岡新聞	地方	水資源の大切さPR 葵区でフェア
8月5日	日本設備工業新聞	全国	水資源の有効活用アピール 第36回水の週間記念シンポジウムを開催
8月5日	朝日新聞	地方	Jは熱く 会場涼しく サポーター打ち水
8月5日	常陽新聞	地方	水の週間イベント 霞ヶ浦
8月5日	毎日新聞	地方	水のイベント 行方
8月6日	佐賀新聞	地方	打ち水でエコ実践
8月6日	日本水道新聞	全国	水の日 健全な水循環を再生
8月7日	大阪日日新聞	地方	250人打ち水
8月8日	福島民報新聞	地方	岡田さん(大熊中)らに賞状 水の作文県コンクール表彰式
8月8日	福島民友新聞	地方	岡田さんらに表彰 水の作文コンクール
8月9日	信濃毎日新聞	地方	善光寺仲見世通りで打ち水 節電PR
8月9日	愛媛新聞	地方	水への理解深める～松山で水の週間記念シンポジウム～
8月11日	静岡新聞	地方	「水に関するポスター」審査 小倉さん(井宮北小)市長賞
8月14日	佐賀新聞	地方	アロマの打ち水で涼
8月14日	沖縄テレビ	地方	水の大切さ 作文通じて学ぶ
8月15日	日本設備工業新聞	全国	下水道の仕組み紹介 第36回水の週間 水の展示会を開催
8月15日	静岡新聞	地方	水への思い 作文に 県が記念コンクール
8月15日	全水協	全国	水の恵みを未来に ～健全な水環境の再生を目指して～
8月15日	沖縄タイムス	地方	源河さんが全国入選 中学生水の作文コン 県上位5人を知事表彰
8月15日	NHK沖縄放送局	地方	全国水の作文入賞者を放送
8月15日	宮古毎日新聞	地方	源河美乃里さんW受賞
8月16日	静岡新聞	地方	下水道の役割学ぶ～藤枝で親子見学会
8月19日	長崎新聞	地方	長崎でフェスタ 利き水や写真展ににぎわう
8月21日	琉球新報	地方	水の大切さ訴え県内5人が入賞
8月22日	佐賀新聞	地方	中学生「水の作文」眞崎さんが入賞
8月23日	宮古毎日新聞	地方	第34回全日本中学生水の作文コンクール中央審査入選
8月24日	上毛新聞	地方	ダム潜入秘密分かった 本県と東京の親子 水の”ふるさと”体験
8月31日	福島民友新聞	地方	全日本「水の作文」で優秀賞 岡田さん(大熊中)町に報告

「水の週間」実施経過

メインスローガン「水ーこの限りある貴重な資源」「水は限りある貴重な資源です」

(国土庁発足 S49. 6.26)
(国土交通省に再編 H13. 1. 6)

年・回	サブスローガン	ポスターキャッチフレーズ	実施事項	備 考
昭和 52 (1)	貴重な水・あなたと一緒に考えたい	水の用心	○水の週間展示会（国土庁会議室） （ポスター、パンフレット） ○第1回水資源に関するシンポジウム （10.25）	・水の週間閣議了解（5.31） ・国連水会議（3.14 ～ 25） ・第三次全国総合開発計画閣議決定
昭和 53 (2)	水の価値をみなおそう 水源地域の人々に感謝しよう 水とのふれあいのなかで……	水も難局だナ	○ウォーターフェア’78 （銀座 松屋）	・水の週間実行委員会設立 （ 5.8、11 団体） ・長期水需給計画策定 ・福岡喝水
昭和 54 (3)	水源地域の人々に感謝しよう 水の大循環の中で私たちは… 限りある水ーいまこそいかそう私 たちの智恵ー	育てよう水 ー足どり確かに、 一歩一歩。ー	○ウォーターフェア’79 （船の科学館） ○第1回全日本中学生水の作文コンク ール ○水資源功績者表彰 ○ウォーターフェアふくおか（福岡市）	・水資源世論調査
昭和 55 (4)	節水型社会をめざして 上下流の連帯を育てよう	貯めましょう日本の水 ーみんなの水を、みんなの水 で。ー	○ウォーターフェア’80東京 （科学技術館） ○上下流交流運動	・地域水需給計画推進 ・沖縄喝水
昭和 56 (5)	水源地の人たちに感謝しまし いのちの水・水とのであい。	今日の水・明日の水 ー水みんなの和で 育てよう。ー	○ウォーターフェア’81東京 （科学技術館） ○第1回ウォーターフェア隅田川 レガッタ ○ウォーターフェアポートピア （兵庫県）	・水研究協力校の指定
昭和 57 (6)		丈夫な水に育てたい。	○ウォーターフェア’82東京 （科学技術館） ○第2回水資源に関するシンポジウム （8.3 ～ 5）	・長崎水害
昭和 58 (7)		やさしい、水、好き。	○ウォーターフェア’83東京 （科学技術館）	・これより毎年、水資源白書作成
昭和 59 (8)		水の愛につつまれて	○ウォーターフェア’84東京 （科学技術館）	・水資源局から水資源部へ改組 （国土庁） ・国際河川博覧会（アメリカ・ニュー オリンズ）
昭和 60 (9)	考えよう水ーくらしと水・資源とし て水ー	水・ありがとう。	○ウォーターフェア’85東京 （科学技術館） ○ウォーターフェアKOB E （神戸市）	・冬期喝水
昭和 61 (10)	築こう 水のある豊かな暮らし	いつも水といっしょ。	○ウォーターフェア’86東京 （科学技術館） ○ウォーターランド（新宿副都心） ○第1回水とのふれあいフォトコンテ スト ○ダム子供マラソン（宮ヶ瀬ダム）	・水資源世論調査 ・冬期喝水（西日本）
昭和 62 (11)	水のある豊かな暮らし	水は、ともだち。	○ウォーターフェア’87東京 （科学技術館） ○第3回水資源に関するシンポジウム （浩宮殿下による特別講演） （ 8.4 ～ 5）	・首都圏喝水 ・第四次全国総合開発計画閣議決定 ・全国総合水資源計画（ウォータープ ラン 2000）策定
昭和 63 (12)	水のある豊かな暮らし	ぼくの水、みんなの水。	○ウォーターフェア’88東京 （科学技術館） ○水の日記念テレビトーク	・浩宮殿下展示会御台臨 ・竹下内閣総理大臣記念式典臨席
平成元 (13)	水のある豊かな暮らし	水、今日もありがとう。	○ウォーターフェア’89東京 （科学技術館）	・皇太子殿下展示会行啓 ・宇野内閣総理大臣記念式典臨席
平成2 (14)	水のある豊かな暮らし	水がささえる豊かな社会	○ウォーターフェア’90東京 （科学技術館）	・人と水とのかかわり世論調査 ・首都圏喝水
平成3 (15)	水が支える豊かな暮らし	水…みんなの宝	○ウォーターフェア’91東京 （東京都庁）	・皇太子殿下記念式典、展示会行啓

年・回	サブスローガン	ポスターキャッチフレーズ	実施事項	備 考
平成 4 (16)	水が支える豊かな暮らし	考えよう、水のあした	○ウォーターフェア’9 2 東京 (東京都庁) ○第 4 回水資源に関するシンポジウム (10.24)	・環境と開発に関する国連会議
平成 5 (17)	水が支える豊かな暮らし	水がなくては生きられないからね	○ウォーターフェア’9 3 東京 (墨田区役所)	・「国連水の日」制定 (3.22)
平成 6 (18)	水が支える豊かな暮らし	すばらしい自然の恵み 「水」を見直そう	○ウォーターフェア’9 4 東京 (墨田区役所)	・村山内閣総理大臣記念式典臨席 ・全国的な渇水 ・人と水とのかかわり世論調査
平成 7 (19)		大切に使おう、かけがえのない 「水」	○ウォーターフェア’9 5 東京 (墨田区役所)	
平成 8 (20)		天の恵み「水」。ありがとう。 「水」を見つめて、2 0 年。	○ウォーターフェア’9 6 東京 (科学技術館)	・皇太子ご夫妻記念式典、展示会行啓 ・橋本内閣総理大臣記念式典臨席
平成 9 (21)		夏、到来。	○ウォーターフェア’9 7 東京 (科学技術館) ○第 5 回水資源に関するシンポジウム (8. 4 ～ 5)	
平成 10 (22)		みんなで考えよう、 水の大切さ…。	○ウォーターフェア’9 8 東京 (科学技術館)	
平成 11 (23)		「当たり前」ではありません！	○ウォーターフェア’9 9 東京 (科学技術館) ・水源地域からのメッセージ	・新しい全国総合水資源計画（ウォー タープラン 2 1）策定 ・小渕内閣総理大臣記念式典臨席、展 示会視察
平成 12 (24)		水の力	○ウォーターフェア 2000 東京 (江戸東京博物館)	
平成 13 (25)		水の世紀。川の恵み。	○ウォーターフェア’0 1 東京 (東京都庁)	・国土交通省発足 (1. 6) ・全国的な渇水
平成 14 (26)		水の世紀。川の恵み。	○ウォーターフェア’0 2 東京 (新宿パークタワー) ○第 6 回水資源に関するシンポジウム (8. 2 ～ 3)	・皇太子殿下記念式典、展示会行啓
平成 15 (27)		水の世紀。川の恵み。	○ウォーターフェア’0 3 東京 (科学技術館)	・長い梅雨、冷夏
平成 16 (28)		みんな水から始まった	○ウォーターフェア’0 4 東京 (科学技術館)	・東京の真夏日の連続記録更新 ・局所的な豪雨
平成 17 (29)		みんな水から始まった	○ウォーターフェア’0 5 東京 (科学技術館)	・全国的な渇水 ・局所的な豪雨
平成 18 (30)		水のある幸せ、これからも	○ウォーターフェア’0 6 東京 (科学技術館)	・皇太子殿下 水の展示会行啓 ・1 7 年末に全国で大雪、降水量首都 圏は平年並み
平成 19 (31)		水がある、いのちがある。	○ウォーターフェア’0 7 東京 (科学技術館) ○第 7 回水資源に関するシンポジウム (8. 3 ～ 4)	・春から 6 月にかけて西日本を中心に少 雨続く、梅雨入りに遅れ、一部で渇 水、夏に記録的高温
平成 20 (32)		水がはぐくむ和の暮らし	○ウォーターフェア’0 8 東京 ○水を考えるつどい (科学技術館)	・中国、四国地方を中心とした渇水 ・局所的な豪雨
平成 21 (33)		将来を安全・安心に暮らすた め、水を大切に使う社会へ	○ウォーターフェア’0 9 東京 ○水を考えるつどい (科学技術館)	・中国、九州北部を中心とした記録的 な豪雨
平成 22 (34)		水の安心・安全を考えよう！	○ウォーターフェア’1 0 東京 ○水の週間記念シンポジウム (科学技術館)	・局所的な豪雨 ・全国で記録的な猛暑
平成 23 (35)		水の恵み～東日本大震災を機 に考える～	○水の週間中央行事「水の展示会」 ○「水の週間」水を考えるつどい (科学技術館)	・皇太子殿下水を考えるつどい行啓 ・平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨 ・全国で節電の夏
平成 24 (36)		水の恵みを未来に～健全な水循 環の再生を目指して～	○水の週間中央行事「水の展示会」 ○水の週間シンポジウム (科学技術館)	・平成 24 年 7 月九州北部豪雨 ・利根川水系渇水 ・全国で節電

※ 全日本中学生水の作文コンクール、隅田川レガッタ、水とのふれあいフォトコンテストは、現在も継続中。

水の週間実行委員会について

昭和53年に、水に関係の深い民間団体により、「水の週間実行委員会」が設立され、「水の日」「水の週間」の趣旨に賛同し、この運動をさらに広汎な国民運動として推進することとして、政府・地方公共団体等が行う各種の啓発活動と連携して諸活動を実施している。

水の週間実行委員会設立趣意書

(昭和53年5月8日設立総会)

かつて、ケネディは「21世紀を制するものは原子力と水だ」と断言し、水問題の重要性を訴えたが、まことに水は国の産業経済の発展のみならず人類の生存に必須なものであり、水問題の解決なくしては将来の発展は考えられないといつてよいであろう。

古来、我が国は、豊葦原瑞穂の国といわれ豊かな水に恵まれ“水の恩恵”を享受してきており、「水は天からもらい水」「湯水のように使う」などの言葉に示されるように水はいつでも好きなだけ使える無尽蔵な資源と考えられがちであった。

しかし、近年における生活水準の向上、産業経済の発展に伴い特に人口・産業の集中が著しい関東・近畿等の都市における生活用水、工業用水等の水需要が急激に増大し、渇水時における水不足や水質汚濁、地盤沈下等の問題を生じるところとなり、ようやく「水」が限りある資源として認識されはじめたところであるが、まだ十分とはいえない。

このため、政府は、昭和52年に8月1日を「水の日」とし、この日から1週間を「水の週間」と定め水に関する国民の理解と認識を深めることとして、水に関する各種の啓発運動を実施したところであるが、誠に時宜を得た意義深いものであり、今後とも積極的な展開が望まれるところである。

とりわけ、開発適地の減少等からダム等による水資源開発が次第に困難となり近い将来における水需要のひっ迫が避けられず、今後は水利用の合理化等の施策の推進が必要となっている今日の状況に鑑みるならば、「水の週間」における啓発運動をさらに積極的に推進し、国民一人一人が水資源開発の重要性を十分認識し、水の有限性・貴重さを理解し節水等の具体的な行動に留意するような効果的な運動として盛り上げる必要がある。

このような考えのもとに、政府による「水の週間」の各種の啓発運動と一体となった諸行事を積極的に実施し、もって水資源問題解決の一助に資するものとして、「水」に深いかかわりをもつ事業団体等によっての水の週間実行委員会を設立するものである。

水の週間実行委員会の組織

会 長 虫 明 功 臣（日本河川協会会長）

平成24年 8月 1日現在

団 体 名	実 行 委 員		運 営 委 員	
全 国 水 土 里 ネット	専務理事	中 條 康 朗	所 長	奥 田 透
造 水 促 進 セ ン タ ー	理 事 長	山 本 和 夫	常務理事	秋 谷 鷹 二
日 本 治 山 治 水 協 会	会 長	山 口 俊 一	専務理事	山 田 壽 夫
日 本 河 川 協 会	会 長	虫 明 功 臣	常務理事	住 吉 豊 明
日 本 工 業 用 水 協 会	会 長	大 村 秀 章	総務部長	芳 田 丈 夫
日 本 水 道 協 会	専務理事	尾 崎 勝	調査部長	松 明 淳
全 国 簡 易 水 道 協 議 会	会 長	井 口 一 郎	事務局長	若 松 五 常
日 本 下 水 道 協 会	会 長	小 村 和 年	常務理事	石 川 清
日 本 ダ ム 協 会	会 長	中 村 満 義	専務理事	横 塚 尚 志
利根川・荒川水源地域対策基金	理 事 長	志 水 茂 明	事務局長	梶 間 谷 允
	理 事	藤 井 友 竝		
日 本 水 フ ォ ー ラ ム	代表理事	竹 村 公 太 郎	代表理事	竹 村 公 太 郎
土 木 学 会	会 長	小 野 武 彦	専務理事	大 西 博 文
農 業 農 村 工 学 会	会 長	塩 沢 昌	専務理事	小 前 隆 美
独立行政法人水資源機構	理 事 長	甲 村 謙 友	総務部長	大 野 雄 一
	理 事	◎ 千 田 淳	総務部次長	阿 部 広 志

団 体 名	実 行 委 員	運 営 委 員	
国 土 交 通 省（水 資 源 部）	－	大 臣 官 房 審 議 官	○石 川 裕
		水 資 源 政 策 課 長	池 本 武 広
		水 資 源 計 画 課 長	宮 崎 正 信
		専 門 調 査 官	吉 田 弘 明
東 京 都（都 市 整 備 局）	－	局 長	飯 尾 豊
		都 市 づ く り 政 策 部 長	町 田 修 二
		都 市 づ く り 政 策 部 水 資 源・建 設 副 産 物 担 当 課 長	池 内 光 介

◎運営委員長 ○運営副委員長

第36回「水の週間」ポスター

水の恵みを未来に

～ 健全な水循環の再生を目指して～



第36回

8月1日は 8月1日～7日は
「水の日」「水の週間」

水は限りある貴重な資源です。

「水の日」「水の週間」に関する行事等の情報は、国土交通省ホームページもしくは独立行政法人水資源機構ホームページをご覧ください

水の週間

検索

国土交通省・都道府県・水の週間実行委員会

水の週間実行委員会事務局

〒330-6008 埼玉県さいたま市中央区新都心1-1-2

独立行政法人 水資源機構 広報課内

TEL 048-600-6513